



2022年(令和4年)3月8日 火曜日

花粉症の有病率4割

免疫療法で根本改善も



佐伯暢生医師



春は目の前です。新たな門出に浮き足立つ人、新型コロナウイルスの影響で思うように過ごせない人。皆さんの置かれた状況はさま

ざまかと思えます。しかしスギ花粉は変わることなく今年もやってきます。

日本人の花粉症の有病率(病気がある人の割合)は43%、花粉症・アレルギー性鼻炎全体では50%に上ります。しかし、日本でアレルギー疾患がこれほど広まったのはたかだか60年です。この60年で何があつた

のでしょうか。

■生活改善とともに

戦後、日本の公衆衛生は著しく向上し、寄生虫の感染などが減りました。感

染などが減りました。感と闘ってきた免疫が必要なくなり、本来ならあまり害のない花粉やダニなどの原因物質に免疫反応が移っていきま

きました。建築技術の向上とともに、住宅は気密性が高まり、快適になりました。その一方でダニやカビの室内アレルギー原因物質が増えやすくなりま

りました。さらに魚中心だった食生活は、肉類や加工食品が中心の「食の欧米化」が進みました。欧米流に偏った食

生活は、アレルギー炎症を誘導することが分かっています。日本の発展に伴い、アレルギー患者が増える要素も多くなったのです。

■アレルギーは国民病

いまや国民病ともいえるアレルギー。治るかとおく質問されますが、答えは「すべてにはノー」です。先述の通り、生活環境や遺伝が原因となるため、すぐに治すことは難しい。患者自身もアレルギーは慢性的な病気と認識した上で、うまく付き合っていく必要があります。

そのためにはアレルギー血液検査は欠かせません。原因物質とアレルギーの強

さがはつきりと分かるからです。内服が必要な時期や対策を、個人に合わせて一緒に考えることができるので、治療にとっても非常に有用な検査です。

そんな治りにくいアレルギーを唯一、根本的に改善できるのが「アレルギー免疫療法」です。日本人の主なアレルギーであるスギ花粉症とダニアレルギーの治療薬が開発されており、希望される人が近年増えている治療法です。一度、耳鼻咽喉科を受診してください。その一歩が今後のアレルギー人生を変えるかもしれません。

(明石市医師会 佐伯暢生 医師||耳鼻咽喉科)